




## 審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	乙 第 2971 号	氏名	森川 渚
審 査 担 当 者	主 査	行原 真一	
	副主査	採小 主	
	副主査	甲斐 久史	
主論文題目： <b>Thrombospondin-2 as a potential risk factor in a general population</b> (一般住民における潜在的危険因子であるトロンボスポンジン-2)			

### 審査結果の要旨（意見）

主論文の内容は地域住民における心血管系疾患の新たなリスクファクターに関する貴重な研究で、既に Int Heart Journal にアクセプトされている。横断研究であり、因果関係の推論については時間の前後関係についての詳細な検討が必要であるが、既存のリスクファクターとの関連を考慮した解析を行うことで、さらなる発展が期待できる。集談会での発表では本研究の意義や目的・結果などに加え、トロンボスポンジン-2 の生物学的メカニズムに関する内容も適切に発表していた。発表後の討論においても適切に対応されており、申請者の知識・理解は十分と判断されたため、学位（博士（医学））の授与可能と考える。

### 論文要旨

血清トロンボスポンジン 2 (TSP-2) は細胞外基質に存在し、外傷や炎症の際に増加し機能する糖蛋白である。最近の臨床研究で、血清 TSP-2 値が心不全患者における心血管死亡の予測因子であることが報告された。しかし一般住民における血清 TSP-2 値の臨床意義については未だ分かっていない。そこで我々は一般住民において血清 TSP-2 値と心血管病の危険因子との関連性を調べた。

2013-2014 年に長崎県の宇久町の住民を対象とし、合計 445 名 (男性 183 名、女性 263 名) に血液検査を含む健康調査を行った。統計学的手法は SAS を用い、単・重回帰分析を用いた解析を行った。

結果、対象者の平均年齢は  $67.0 \pm 9.4$  歳で、血清 TSP-2 値は年齢・性別と関連はなかった。血清 TSP-2 値は、インスリン抵抗性の指標である homeostasis model assessment of insulin resistance (HOMA-IR)、高感度 C-reactive protein (CRP)、N-terminal-pro brain natriuretic peptide (NT-proBNP) と正の関連を認めた。また心房細動の既往とも有意な関連を認めた。さらにステップワイズ解析によっても、これらの因子は血清 TSP-2 値と独立した有意な関連を示した。以上の結果より、一般住民においても血清 TSP-2 値は心血管病の危険因子と関連することが示唆された。